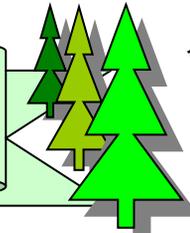


# 街路樹



「特別活動の授業改善の視点と実践例紹介」

「SCの活用について」

『METs(メッツ) : Metabolic Equivalents』という単位をご存知でしょうか。これは、厚生労働省が策定した「健康づくりのための運動指針」に示された運動強度の単位です。安静時を1として、洗濯が2METs、犬の散歩が3METsというふうに換算し、国立健康・栄養研究所の「身体活動のメッツ表」等に換算表が例示されています。

今回は、METsを活用して運動を見える化し、学級活動(2)の学びのプロセスを応用した実践事例をご紹介します。

プロセス①「つかむ」

新体力テストの結果等から実態を把握する。

プロセス②「さぐる」

学校生活関連の行動で、少しの工夫で運動に結びつく場面を探し、取り組みやすいように取捨選択・分類整理する。

プロセス③「見つける」

運動の具体例を加えたオリジナルMETs表を作成する。必要に応じて、校内各所への掲示物等を準備する。

プロセス④「決める」

個人目標を決め、実行への決意をもつ。

(例)歩いて登校したら3METs!



学級活動を起点としたこの取組みにより、個人目標を修正しながら運動を楽しむ子どもの姿がイメージできてきたでしょうか。さらに、継続の視点から見た仕掛けのご紹介です。

- 強化期間の設定をする・呼びかけ、掲示物リニューアル等
- 自己の成長を視覚的に見取れるようにするため、端末等で獲得METsを記録・累積する

また、学級の枠を超える視点での展開例もあります。学級活動を、学校や家庭の取組みに広げた実践例です。

- 縦割り班活動や委員会活動として、全校児童が楽しみながら取り組む。
- 家庭生活も加えたMETs表パワーアップ版を作成し、家族を巻き込んで体力向上に取り組む。

学級活動(2)ウ「心身の健康の保持増進」に係る事例をご紹介します。これらの取組みにより、「動きたい体・動ける体になってきた」「運動は大事という意識に変わってきた」等の変容が期待できます。楽しみながら、結果として学力や体力の向上に結びつくような実践を通して、実生活や実社会に生きて働く汎用的な力を育成しましょう。



## 「外国語指導助手(ALT)との打合せの大切さについて」



本市では外国語指導助手(以下、ALT)を27名雇用しており、中学校基幹校から近隣の中学校・小学校を訪問して、小学校外国語活動・外国語科、中学校英語科の授業を支援しています。原則、同学校区の小・中学校にALTを配置することにより、ALTは経年で児童生徒の成長を見ることができるとともに、児童生徒も安心感をもって授業に臨むことができること、ALTが小学校外国語活動、外国語科、中学校英語科の授業を支援することで、7学年分の外国語教育に携わり、それぞれの発達段階に合わせた指導ができるようになり、子どもたちへの外国語教育の充実が図られます。また、ALTの強みを活かし、日本人教師とALTが協力して授業を設計・実施するためには、事前打合せを徹底することが不可欠です。今回はALTとの打合せのコツを3つ紹介します。

1 全て英語でなくてもよい。(翻訳アプリを活用してもよい。)

ジェスチャー等を用いながら日本語で話したり、翻訳アプリを使ったりして打合せをすることは何ら問題はありません。その授業で子どもたちにどういった力をつけたいかをしっかり共有することが最も大切です。

2 ALTにお願いしたいことを含め、物事ははっきり伝える。(事前にメール、FAX等で連絡しておく。)

ALTへの依頼はシンプルにはっきり伝えてください。(例「母国のレストランについて、スライドを使って簡単に説明してほしい」)

「Unit〇の〇〇という言語材料を使った活動をしたいので、何か活動を紹介してほしい」など) ただし、スライド、活動など準備に時間がかかるものについては、事前にメールやFAX等でALTに連絡をお願いします。

3 T1は日本人教師(学級担任、専科教員、英語科教員)であることを踏まえる。

当該学級や児童生徒の実態を最もよく把握しているのは当該学級担任であり、専科教員であり、英語科教員です。ALTはあくまで先生方の指導をサポートする「アシスタント」です。

学校配置のスクールカウンセラー(以下SC)の業務内容は、主に次のようなものがあります。

- 1 児童生徒、保護者、教職員に対する相談・助言
- 2 校内会議等(生徒指導委員会等)への参加
- 3 教職員や保護者への研修や、児童生徒への講話
- 4 相談者への心理的な見立てや対応
- 5 ストレスチェックやストレスマネジメント等の予防的対応

SCは、子どもの社会性を育てる開発的・予防的カウンセリングに関する知識や技能を生かして、ケースによっては、

- コミュニケーションの苦手がみられる児童生徒へのソーシャルスキルトレーニング
- 感情コントロールが難しい児童生徒へのストレスマネジメント等について、助言も行っています。

相談者とSCが繋がるためには、学級担任や養護教諭、管理職や教育相談のコーディネーターなどの働きかけが大きな役割を果たします。SCと繋がることで、児童生徒への理解が深まったり、新たな視点からの支援が広がったりする場合もあります。まずは学校の先生方が、進んでSCと話をし信頼関係を築いていくことが、児童生徒、保護者の困り感の解消に繋がっていきます。



### <総合教育センター配置のSCの活用について>

自校のSCや近隣中学校のSCの活用が難しい場合は、総合教育センターへ来所して、センター配置のSCと面談を行うことも可能です。活用希望の際には、管理職を通して、事前に教育支援室にご連絡ください。

総合教育センターでのカウンセリングは、学校と連携を図り、ケース会議等に参加させていただくこともあります。様々な環境の変化により困難な状況を抱えている児童生徒、保護者へ寄り添った支援を行っていくための、一つの方法としてご活用ください。

